

■当ファンドの仕組みは次の通りです。

商品分類	追加型投信／海外／株式
信託期間	2019年11月6日から2029年10月15日まで
運用方針	投資信託証券への投資を通じて、実質的に米国の株価指数先物取引を機動的に活用することにより、信託財産の中長期的な成長を目指します。
主要投資対象	当ファンドは以下の投資信託証券を主要投資対象とします。 パッシブ・トラストⅡ-USエクイティ・マルチ・モメンタム・ファンド（Bクラス、円建て） 担保付スワップ取引および日本の公社債 マネー・トラスト・マザーファンド 円貨建ての短期公社債および短期金融商品
当ファンドの運用方法	■米国の株価指数先物取引を機動的に活用します。 ■米国株式市場の「4つのトレンド」に着目し、トレンドを捉える4つの戦略の組合せにより収益の獲得を目指します。 ■実質組入外貨建資産については、原則として対円での為替ヘッジを行います。
組入制限	■外貨建資産への直接投資は行いません。
分配方針	■年1回（原則として毎年10月15日。休業日の場合は翌営業日）決算を行い、分配金額を決定します。 ■分配対象額は、経費控除後の利子、配当等収益と売買益（評価損益を含みます。）等の範囲内とします。 ■分配金額は、委託会社が基準価額水準、市況動向等を勘案して決定します。 ※委託会社の判断により分配を行わない場合もあるため、将来の分配金の支払いおよびその金額について保証するものではありません。 （ファンドは複利効果による信託財産の成長を優先するため、分配を極力抑制します。 （基準価額水準、市況動向等によっては変更する場合があります。）

# テトラ・エクイティ

## 【運用報告書(全体版)】

(2019年11月6日から2020年10月15日まで)

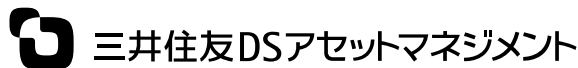
第 **1** 期  
決算日 2020年10月15日

### 受益者の皆さまへ

平素は格別のお引立てに預かり、厚くお礼申し上げます。

当ファンドは投資信託証券への投資を通じて、実質的に米国の株価指数先物取引を機動的に活用することにより、信託財産の中長期的な成長を目指します。当期についても、運用方針に沿った運用を行いました。

今後ともご愛顧のほどお願い申し上げます。



三井住友DSアセットマネジメント

〒105-6426 東京都港区虎ノ門1-17-1

<https://www.smd-am.co.jp>

■口座残高など、お取引状況についてのお問い合わせ

お取引のある販売会社へお問い合わせください。

■当運用報告書についてのお問い合わせ

コールセンター 0120-88-2976

受付時間：午前9時～午後5時(土、日、祝・休日を除く)

## ■ 設定以来の運用実績

決算期	基準価額			債券組入率 比	投資信託証券 組入比率	純資産額
	(分配落)	税金 込	騰落 率			
(設定日) 2019年11月6日	円 10,000	円 -	% -	% -	% -	百万円 3,019
1期(2020年10月15日)	15,291	0	52.9	0.0	99.5	133,390

※基準価額の騰落率は分配金込み。

※当ファンドは親投資信託を組み入れますので、比率は実質比率を記載しています。

※当ファンドの運用方針に対し適切に比較できる指数がないため、ベンチマークおよび参考指数を記載しておりません。

## ■ 当期中の基準価額と市況等の推移

年月日	基準価額		債券組入率 比	投資信託証券 組入比率
	騰落率	騰落率		
(設定日) 2019年11月6日	円 10,000	% -	% -	% -
11月末	9,910	△ 0.9	0.0	102.3
12月末	9,818	△ 1.8	0.0	97.9
2020年1月末	10,066	0.7	0.0	98.3
2月末	10,730	7.3	0.0	98.7
3月末	14,560	45.6	0.0	100.3
4月末	14,968	49.7	0.0	97.4
5月末	13,463	34.6	0.0	97.7
6月末	14,534	45.3	0.0	101.6
7月末	14,744	47.4	0.0	97.5
8月末	14,574	45.7	0.0	100.0
9月末	15,298	53.0	0.0	98.6
(期末) 2020年10月15日	15,291	52.9	0.0	99.5

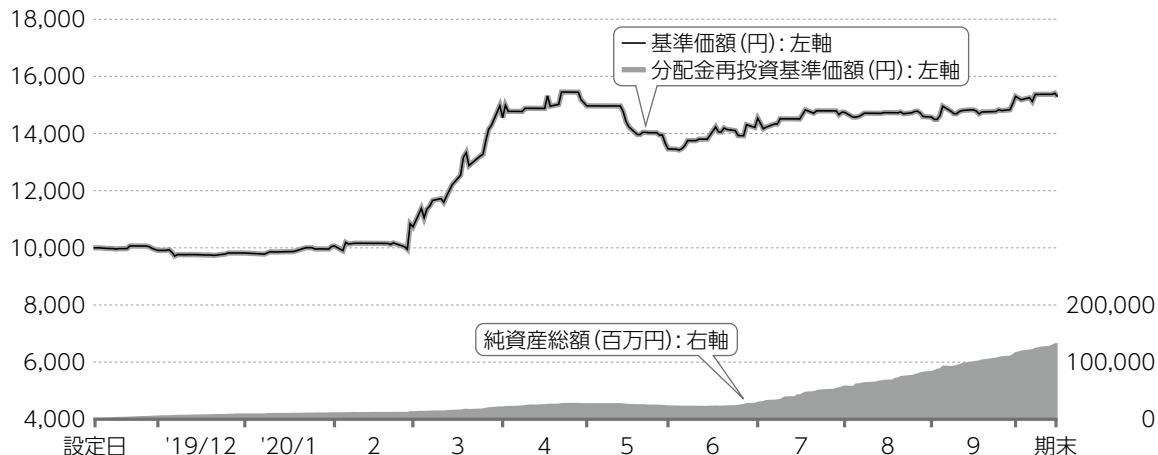
※騰落率は設定日比です。

※当ファンドは親投資信託を組み入れますので、比率は実質比率を記載しています。

# 1 運用経過

基準価額等の推移について(2019年11月6日から2020年10月15日まで)

## 基準価額等の推移



設定日	10,000円
期 末	15,291円 (分配金0円(税引前)込み)
騰 落 率	+52.9% (分配金再投資ベース)

## 分配金再投資基準価額について

分配金再投資基準価額は分配金(税引前)を分配時に再投資したと仮定して計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示します。

※分配金を再投資するかどうかについては、受益者の皆さまがご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額などによって課税条件も異なります。したがって、受益者の皆さまの損益の状況を示すものではありません。(以下、同じ)

### 基準価額の主な変動要因(2019年11月6日から2020年10月15日まで)

当ファンドは、投資信託証券への投資を通じて、実質的に米国株式先物等に投資しました。

### 上昇要因

- 新型コロナウイルスの感染拡大を受けた市場急落局面で、日中戦略と月末戦略などで大きく収益を確保したこと

### 組入れファンドの状況

組入れファンド	投資資産	期末組入比率
パッシブ・トラストⅡーUSエクイティ・マルチ・ モメンタム・ファンド(Bクラス、円建て)	担保付スワップ取引 および日本の公社債	99.5%
マネー・トラスト・マザーファンド	短期金融資産	0.0%

※比率は、純資産総額に対する割合です。

## 投資環境について(2019年11月6日から2020年10月15日まで)

## 米国株式市場は上昇しました。

設定日以降2020年2月中旬まで、米中貿易問題や英国のEU(欧州連合)離脱問題に進捗がみられ(英国は1月末にEUを離脱しました)、市場はリスク・オン(リスク選好)となり、株式市場は堅調に推移しました。2月に米国で初めて新型コロナウイルスの感染者が出ると、2月下旬から3月中旬にかけて、加速度的に市場はリスク・オフ(リスク回避)となり、米国の株式市場をはじめ世界中で大幅な株安が進行しました。その後は、各国中央銀行の金融緩和政策などにより、市場は持ち直し、テクノロジー株の

牽引などもあり、底値から急速に株価は回復し、8月まで上昇を続けました。9月にはテクノロジー株に調整が入る局面もみられましたが、10月以降は、11月の大統領選挙の様子を窺いながら、期末まで株価は再び上昇しました。金利水準はしばらく低位での推移が予想されるため、市場の注目は選挙後の財政政策へとシフトしています。

当期の市場の動きをS & P 500インデックス(円ヘッジ)でみると、設定日に比べて11.87%上昇しました。

## ポートフォリオについて(2019年11月6日から2020年10月15日まで)

## 当ファンド

「パッシブ・トラストⅡーUSエクイティ・マルチ・モメンタム・ファンド(Bクラス、円建て)」の投資比率を高位に保ちました。

## パッシブ・トラストⅡーUSエクイティ・マルチ・モメンタム・ファンド(Bクラス、円建て)

実質的に投資する戦略指数を構成する4

戦略の運用経過は以下の通りです。

## ＜月初戦略＞

設定後の運用期間においても「月初の株高」トレンドは多くの月で確認され、安定的にリターンを積み上げることができました。また、リスクシグナルによるポジション回避もみられ、過度なリスクをとらない運用を行いました。

## ＜月中戦略＞

市場のボラティリティ(価格変動性)が高くなった3月や9月の株価下落時に、オブ

## テトラ・エクイティ

ション市場の資金フローによる株価トレンドへの影響が大きくなり、ショートポジションで収益化することができました。

### <月末戦略>

月末戦略も大きく株価が動くほどに効果が強くなりました。月中株価が大きく下落した3月や9月は、市場参加者のリバランス(投資配分比率の調整)による株価上昇を狙ったロングポジションで収益化することができました。一方で、月中上昇した4月と5月は、リバランスによる下落を想定してショートポジションとしましたが、買いの勢いが強く損失となりました。

### <日中戦略>

ボラティリティの高い局面において強さを発揮する日中戦略は、設定後の長期的な株価上昇局面における低ボラティリティ下においては機能しにくい状況が続きましたが、3月のコロナショック期間中の非常に高いボラティリティ相場においては高い勝率で収益を積み上げることができました。

## マネー・トラスト・マザーファンド

主として、円貨建ての短期公社債および短期金融商品に投資し、安定した収益の確保を目指した運用を行いました。

### ベンチマークとの差異について(2019年11月6日から2020年10月15日まで)

ベンチマークおよび参考指数を設けていませんので、この項目に記載する事項はありません。

### 分配金について(2019年11月6日から2020年10月15日まで)

(単位:円、1万口当たり、税引前)

項目	第1期
当期分配金	-
(対基準価額比率)	(-%)
当期の収益	-
当期の収益以外	-
翌期繰越分配対象額	5,290

当期の分配は、複利効果による信託財産の成長を優先するため、見送りとしたしました。なお、留保益につきましては、運用の基本方針に基づき運用いたします。

※単位未満を切り捨てているため、「当期の収益」と「当期の収益以外」の合計が「当期分配金」と一致しない場合があります。

※「対基準価額比率」は、「当期分配金(税引前)の期末基準価額(分配金(税引前)込み)に対する比率で、当ファンドの収益率とは異なります。

## 2 今後の運用方針

### 当ファンド

「パッシブ・トラストⅡ－USエクイティ・マルチ・モメンタム・ファンド(Bクラス、円建て)」の投資比率を高位に保ちます。

### パッシブ・トラストⅡ－USエクイティ・マルチ・モメンタム・ファンド(Bクラス、円建て)

11月に控える大統領選挙に向けた討論会などを受けた市場へのインパクトや、実際の選挙結果を受けた財政政策の変化など、米国政治動向を要因とする市場変動は大きくなると予想されます。また新型コロナウイルスの冬場に向けた感染再拡大が实体经济に与える影響も注視すべき対象であり、

これらは国債をはじめとする金利市場を通じて米国株式市場にも密接に影響を与えます。これらの不確実さにより市場のボラティリティの高止まりが続くようであれば、当該戦略が効果的に機能しやすい局面が続くことが期待されます。当該戦略指数では、引き続き構成する4戦略を通じた機動的なポジション構築を実施していく方針です。

### マネー・トラスト・マザーファンド

主として、円貨建ての短期公社債および短期金融商品に投資し、安定した収益の確保を目指します。

## 3 お知らせ

### 約款変更について

該当事項はございません。

### 信託金限度額引上げ予定について

市場環境の変化を考慮し運用手法を見直した結果、運用の同一性を損なうことなく運用可能金額を引き上げることが可能であることが確認できたことから、受益者の皆さまの運用機会を継続的に提供する観点より、2020年10月16日を信託約款変更日として、信託金限度額を1,500億円から2,500億円に変更いたします。

■ 1万口当たりの費用明細 (2019年11月6日から2020年10月15日まで)

項 目	金 額	比 率	項 目 の 概 要
(a) 信 託 報 酬 (投 信 会 社) (販 売 会 社) (受 託 会 社)	93円 (38) (52) ( 3)	0.715% (0.290) (0.404) (0.021)	信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率×(経過日数/年日数) 投信会社：ファンド運用の指図等の対価 販売会社：交付運用報告書等各種資料の送付、口座内でのファンドの管理、購入後の情報提供等の対価 受託会社：ファンド財産の保管および管理、投信会社からの指図の実行等の対価
(b) そ の 他 費 用 (監 査 費 用) (そ の 他)	1 ( 1) ( 0)	0.007 (0.007) (0.001)	その他費用＝期中のその他費用/期中の平均受益権口数 監査費用：監査法人に支払うファンドの監査費用 そ の 他：信託事務の処理等に要するその他費用
合 計	94	0.722	

期中の平均基準価額は12,969円です。

※期中の費用（消費税のかかるものは消費税を含む）は、追加・解約によって受益権口数に変動があるため、簡便法により算出しています。

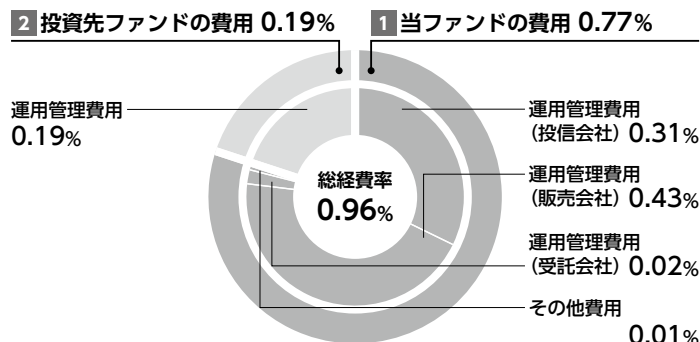
※比率欄は1万口当たりのそれぞれの費用金額を期中の平均基準価額で除して100を乗じたものです。

※各項目毎に円未満は四捨五入しています。

※その他費用は、当ファンドが組み入れているマザーファンドが支払った金額のうち、当ファンドに対応するものを含みます。

※各項目の費用は、当ファンドが組み入れている投資信託証券が支払った費用を含みません。

参考情報 総経費率（年率換算）



総経費率 (1 + 2)	0.96%
1 当ファンドの費用の比率	0.77%
2 投資先ファンドの費用の比率	0.19%



## テトラ・エクイティ

※**1**の各費用は、前掲「1万円当たりの費用明細」において用いた簡便法により算出したもので、各比率は、年率換算した値（小数点以下第2位未満を四捨五入）です。「1万円当たりの費用明細」の各比率とは、値が異なる場合があります。

※**2**の投資先ファンド（当ファンドが組み入れている投資信託証券（マザーファンドを除く））は、直近の費用の詳細が入手できません。よって、目論見書に記載されている「運用報酬等」の数値を用いて、投資先ファンドへの平均投資比率を勘案して、費用を計算しています。

※**1**と**2**の費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を含みません。また、計上された期間が異なる場合があります。

※上記の前提条件で算出している参考値であり、実際に発生した費用の比率とは異なります。

当期中の運用・管理にかかった費用の総額（原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を除く。）を期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額（1口当たり）を乗じた数で除した比率に、投資先ファンドの経費率を加えた総経費率（年率）は0.96%です。

### ■ 当期中の売買及び取引の状況（2019年11月6日から2020年10月15日まで）

#### (1) 投資信託証券

		買 付		売 付	
		口 数	買 付 額	口 数	売 付 額
		口	千円	口	千円
国内	パッシブ・トラストⅡ－USエクイティ・マルチ・モメンタム・ファンド（Bクラス、円建て）	8,731,863	123,754,520	188,176	2,599,000
合 計		8,731,863	123,754,520	188,176	2,599,000

※金額は受渡し代金。

※単位未満は切捨て。ただし、単位未満の場合は小数で記載。

#### (2) 親投資信託受益証券の設定、解約状況

	設 定		解 約	
	口 数	金 額	口 数	金 額
マネー・トラスト・マザーファンド	千口 1,503	千円 1,500	千口 -	千円 -

※単位未満は切捨て。ただし、単位未満の場合は小数で記載。

### ■ 利害関係人との取引状況等（2019年11月6日から2020年10月15日まで）

当期中における利害関係人との取引等はありません。

※利害関係人とは、投資信託及び投資法人に関する法律第11条第1項に規定される利害関係人です。

## テトラ・エクイティ

### ■ 第一種金融商品取引業、第二種金融商品取引業又は商品取引受託業務を兼業している委託会社の自己取引状況 (2019年11月6日から2020年10月15日まで)

該当事項はございません。また委託会社に売買委託手数料は支払われておりません。

### ■ 組入れ資産の明細 (2020年10月15日現在)

#### (1) ファンド・オブ・ファンズが組入れた邦貨建ファンドの明細

ファンド名	期		末
	口	数	組入比率
バッシム・トラストⅡ－U.Sエクイティ・マルチ・モメンタム・ファンド (Bクラス、円建て)		口	千円
	8,543,687		132,676,880
合計	8,543,687		132,676,880
			99.5
			99.5

※組入比率は、純資産総額に対する評価額の比率。

※単位未満は切捨て。ただし、単位未満の場合は小数で記載。

#### (2) 親投資信託残高

種類	期		末
	口	数	評価額
マネー・トラスト・マザーファンド		千口	千円
		1,503	1,498

※マネー・トラスト・マザーファンドの期末の受益権総口数は12,685千口です。

※単位未満は切捨て。

### ■ 投資信託財産の構成

(2020年10月15日現在)

項目	期		末
	評価額	比率	
投資信託受益証券	千円		%
	132,676,880		96.7
マネー・トラスト・マザーファンド	1,498		0.0
コール・ローン等、その他	4,562,381		3.3
投資信託財産総額	137,240,759		100.0

※単位未満は切捨て。ただし、単位未満の場合は小数で記載。

## ■ 資産、負債、元本及び基準価額の状況

(2020年10月15日現在)

項 目	期 末
(A) 資 産	137,240,759,875円
コール・ローン等	4,562,380,292
投資信託受益証券(評価額)	132,676,880,936
マネー・トラスト・マザーファンド(評価額)	1,498,647
(B) 負 債	3,850,318,831
未 払 金	3,393,900,000
未 払 解 約 金	250,055,295
未 払 信 託 報 酬	204,573,690
未 払 利 息	10,999
そ の 他 未 払 費 用	1,778,847
(C) 純 資 産 総 額(A - B)	133,390,441,044
元 本	87,237,273,210
次 期 繰 越 損 益 金	46,153,167,834
(D) 受 益 権 総 口 数	87,237,273,210口
1 万 口 当 ち 基 準 価 額(C / D)	15,291円

※当期における期首元本額3,019,009,247円、期中追加設定元本額93,356,043,053円、期中一部解約元本額9,137,779,090円です。

※上記表中の次期繰越損益金がマイナス表示の場合は、当該金額が投資信託財産の計算に関する規則第55条の6第10号に規定する額(元本の欠損)となります。

※上記表中の受益権総口数および1万口当たり基準価額が、投資信託財産の計算に関する規則第55条の6第7号および第11号に規定する受益権の総数および計算口数当たりの純資産の額となります。

## ■ 損益の状況

(自2019年11月6日 至2020年10月15日)

項 目	当 期
(A) 配 当 等 収 益	△ 1,109,595円
支 払 利 息	△ 1,109,595
(B) 有 価 証 券 売 買 損 益	9,577,545,414
売 買 益	11,462,826,803
売 買 損	△ 1,885,281,389
(C) 信 託 報 酬 等	△ 260,265,184
(D) 当 期 損 益 金(A + B + C)	9,316,170,635
(E) 追 加 信 託 差 損 益 金	36,836,997,199
(配 当 等 相 当 額)	(△ 2,409,506)
(売 買 損 益 相 当 額)	( 36,839,406,705)
(F) 計 (D + E)	46,153,167,834
(G) 収 益 分 配 金	0
次 期 繰 越 損 益 金(F + G)	46,153,167,834
追 加 信 託 差 損 益 金	36,836,997,199
(配 当 等 相 当 額)	(△ 2,408,502)
(売 買 損 益 相 当 額)	( 36,839,405,501)
分 配 準 備 積 立 金	9,317,269,356
繰 越 損 益 金	△ 1,098,721

※有価証券売買損益は期末の評価換えによるものを含みます。

※信託報酬等には、信託報酬に対する消費税等相当額を含めて表示しています。

※追加信託差損益金とあるのは、信託の追加設定の際、追加設定をした価額から元本を差し引いた差額分をいいます。

※期末における、費用控除後の配当等収益(0円)、費用控除後、繰越欠損金補填後の有価証券売買等損益(9,317,269,356円)、信託約款に規定される収益調整金(36,838,306,780円)より分配可能額は46,155,576,136円(1万口当たり5,290円)ですが、分配は行っておりません。

## ■ 分配金のお知らせ

1 万 口 当 ち 分 配 金 (税 引 前)	当 期
	— 円

上記のほか、投資信託財産の計算に関する規則第58条第1項各号に該当する事項はありません。

## ■ 組入れ投資信託証券の内容

### 投資信託証券の概要

ファンド名	パッシム・トラストⅡ－USエクイティ・マルチ・モメンタム・ファンド（Bクラス、円建て）
形態	ケイマン籍外国投資信託（円建て）
主要投資対象	担保付スワップ取引および日本の公社債を主要投資対象とします。
運用の基本方針	主に担保付スワップ取引を通じて、S & P 500先物を対象としたトレンド戦略の投資成果を享受します。 ・担保付スワップ取引の相手方はJ.P. モルガン・セキュリティーズ・ピーエルシーです。 S & P 500先物を対象としたトレンド戦略については、市場トレンドに合わせてポジションを適宜変更する事で、信託財産の中長期的な成長を目指します。 ・ポジションの構築については、日中トレンド・月初トレンド・月中トレンド・月末トレンドのそれぞれ独立した4つのトレンドに基づいて行います。 ・S & P 500先物の配分は概ね－200%から+200%間で推移します。 ・市場トレンドが観測できないとみなされる期間についてはS & P 500先物への配分を行わない場合もあります。
ベンチマーク	ありません。
主な投資制限	<ul style="list-style-type: none"> <li>・有価証券の空売りは行いません。</li> <li>・純資産総額の10%を超える借入れは行いません。</li> </ul>
決算日	毎年9月30日
分配方針	分配しません。
運用報酬等	純資産総額に対して年0.195%程度* *年間最低報酬額等が定められている場合があるため、純資産総額によっては、上記の料率を上回ることがあります。
管理およびその他の費用	ファンドの設立費用、取引関連費用、法的費用、会計・監査および税務上の費用ならびにその他の費用を負担します。 その他の費用・手数料については、ファンドの運営状況等により変動するものであり、事前に料率、上限額等を示すことができません。
申込手数料	ありません。
信託財産留保額	ありません。
管理会社	J.P. モルガン・マンサール・マネジメント・リミテッド
購入の可否	日本において一般投資者は購入できません。

「パッシム・トラストⅡ－USエクイティ・マルチ・モメンタム・ファンド（Bクラス、円建て）」は直近のデータが入手できないため、記載すべきデータはございません。

# マネー・トラスト・マザーファンド

第5期（2019年10月16日から2020年10月12日まで）

信託期間	無期限（設定日：2016年1月29日）
運用方針	■主として、円貨建ての短期公社債および短期金融商品に投資し、安定した収益の確保を目指します。

## ■ 設定以来の運用実績

決 算 期	基 準	価 額		債 券 組 入 率	純 資 産 額
		騰 落 率	中 率		
（設 定 日） 2016年1月29日	円 10,000		% -	% -	百万円 10
1期（2016年10月12日）	10,001	0.0		80.4	10
2期（2017年10月12日）	9,992	△0.1		90.6	10
3期（2018年10月12日）	9,986	△0.1		68.2	10
4期（2019年10月15日）	9,980	△0.1		68.7	10
5期（2020年10月12日）	9,970	△0.1		74.8	12

※当ファンドの運用方針に対し適切に比較できる指数がないため、ベンチマークおよび参考指数を記載しておりません。

## ■ 当期中の基準価額と市況等の推移

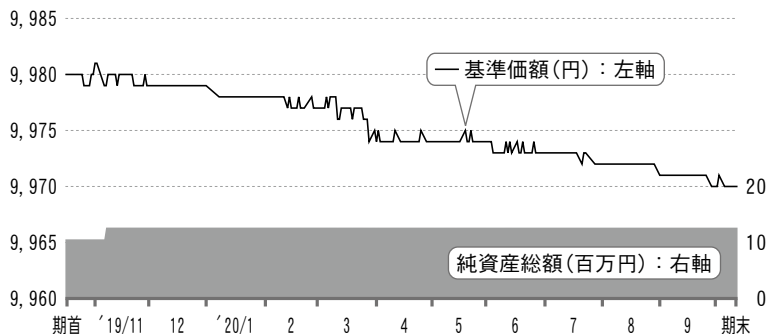
年 月 日	基 準	価 額		債 券 組 入 率
		騰 落 率	率	
（期 首） 2019年10月15日	円 9,980		% -	% 68.7
10月末	9,981	0.0		68.6
11月末	9,979	△0.0		57.2
12月末	9,979	△0.0		68.4
2020年1月末	9,978	△0.0		68.4
2月末	9,977	△0.0		68.3
3月末	9,974	△0.1		69.3
4月末	9,974	△0.1		69.2
5月末	9,974	△0.1		72.5
6月末	9,973	△0.1		72.5
7月末	9,972	△0.1		72.4
8月末	9,971	△0.1		74.9
9月末	9,970	△0.1		74.8
（期 末） 2020年10月12日	9,970	△0.1		74.8

※騰落率は期首比です。

# 1 運用経過

## ▶ 基準価額等の推移について（2019年10月16日から2020年10月12日まで）

### 基準価額等の推移



期首	9,980円
期末	9,970円
騰落率	-0.1%

## ▶ 基準価額の主な変動要因（2019年10月16日から2020年10月12日まで）

当ファンドは、円建ての公社債および短期金融商品などへ投資しました。

### 下落要因

- ・日銀によるマイナス金利政策が継続され、主要投資対象である短期公社債や短期金融商品におけるマイナス利回りが続いたこと

## ▶ 投資環境について（2019年10月16日から2020年10月12日まで）

当期の短期金利は上昇しました。

物価上昇率の伸びが徐々に鈍化したことに加え、新型コロナウイルスの感染拡大により景気が大きく落ち込んだことから、日銀は「長短金利操作付き量的・質的金融緩和」政策を据え置き、日銀当座預金の一部へのマイナス金利付利を継続しました。

国庫短期証券3ヵ月物利回りは、期初から年末越えの運用ニーズが徐々にはく落するとともに上昇基調となり、12月初旬に-0.10%近辺となった後は横ばい圏で推移しました。しかし、2月下旬から世界的に新型コロナウイルスの感染が拡大し、3月にはリスク回避の動きが強まったことから、安全資産としての短期国債への運用ニーズの強まりを背景に3月下旬に利回りは一時-0.40%台まで低下しました。過度な国債需給の引き締めりに対し、日銀が保有国債の売り現先（買い戻し条件付き売却）を断続的に実施したことから徐々に需給が緩和し、利回りは上昇に転

じました。その後は政府による大規模経済対策が策定され、5月から短期国債が大幅に増発されたことから利回りは上昇基調をたどりましたが、日銀が短期国債買入額を増額したことから利回り上昇は一服しました。国庫短期証券3ヵ月物利回りは期首-0.290%に対し、期末は-0.090%へ上昇しました。

### ▶ ポートフォリオについて (2019年10月16日から2020年10月12日まで)

短期金利は低位での推移が継続するとの見通しから、残存0年から1年3ヵ月までの円建て公社債および短期金融商品で構築したポートフォリオを維持しました。また、マイナス利回りの影響を抑制することに配慮しながら、短期公社債の組入れを行いました。

### ▶ ベンチマークとの差異について (2019年10月16日から2020年10月12日まで)

ベンチマークおよび参考指数を設けていませんので、この項目に記載する事項はありません。

## 2 今後の運用方針

2%の物価安定目標の達成が展望出来ない中、日銀によるマイナス金利政策が継続され、短期国債利回りやコールローン翌日物金利など、主要投資対象である短期公社債および短期金融商品の利回りは引き続きマイナス圏での推移を想定します。

残存0年から1年3ヵ月までの公社債や短期金融商品で利回りのマイナス幅が小さい投資対象を選定し、マイナス利回りの影響を抑制することに配慮して運用を行います。

### ■ 1万口当たりの費用明細 (2019年10月16日から2020年10月12日まで)

項目	金額	比率	項目の概要
(a) その他費用 (その他)	1円 (1)	0.005% (0.005)	その他費用＝期中のその他費用／期中の平均受益権口数 その他：信託事務の処理等に要するその他費用
合計	1	0.005	

期中の平均基準価額は9,975円です。

※期中の費用（消費税のかかるものは消費税を含む）は、追加・解約によって受益権口数に変動があるため、簡便法により算出しています。  
※比率欄は1万口当たりのそれぞれの費用金額を期中の平均基準価額で除して100を乗じたものです。  
※各項目毎に円未満は四捨五入しています。

### ■ 当期中の売買及び取引の状況 (2019年10月16日から2020年10月12日まで)

#### 公社債

		買付額	売付額
		千円	千円
国内	特 殊 債 券	9,516	— (7,200)

※金額は受渡し代金。（経過利子分は含まれておりません。）

※単位未満は切捨て。ただし、単位未満の場合は小数で記載。

※（ ）内は償還等による減少分で、上段の数字には含まれておりません。

## ■ 利害関係人との取引状況等 (2019年10月16日から2020年10月12日まで)

当期中における利害関係人との取引等はありません。

※利害関係人とは、投資信託及び投資法人に関する法律第11条第1項に規定される利害関係人です。

## ■ 第一種金融商品取引業、第二種金融商品取引業又は商品取引受託業務を兼業している委託会社の自己取引状況 (2019年10月16日から2020年10月12日まで)

該当事項はございません。また委託会社に売買委託手数料は支払われておりません。

## ■ 組入れ資産の明細 (2020年10月12日現在)

公社債

### A 債券種類別開示

国内(邦貨建)公社債

区 分	期				末			
	額 面 金 額	評 価 額	組 入 比 率	うちBBB格以下 組 入 比 率	残 存 期 間 別 組 入 比 率	5 年 以 上	2 年 以 上	2 年 未 満
	千円	千円	%	%	%	%	%	%
特 殊 債 券 (除 く 金 融 債)	9,400 (9,400)	9,461 (9,461)	74.8 (74.8)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	74.8 (74.8)
合 計	9,400 (9,400)	9,461 (9,461)	74.8 (74.8)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	74.8 (74.8)

※( )内は非上場債で内書きです。

※組入比率は、純資産総額に対する評価額の割合。

※単位未満は切捨て。ただし、単位未満の場合は小数で記載。

※—印は組入れなし。

### B 個別銘柄開示

国内(邦貨建)公社債

種 類	銘	柄	期		末	
			利 率	額 面 金 額	評 価 額	償 還 年 月 日
			%	千円	千円	
特 殊 債 券 (除 く 金 融 債)	第124回	政府保証日本高速道路保有・債務返済機構債券	1.2	2,400	2,406	2020/12/28
	第133回	政府保証日本高速道路保有・債務返済機構債券	1.3	2,300	2,316	2021/4/30
	第135回	政府保証日本高速道路保有・債務返済機構債券	1.1	2,400	2,417	2021/5/31
	第142回	政府保証日本高速道路保有・債務返済機構債券	1.0	2,300	2,321	2021/8/31
合 計		計	—	9,400	9,461	—

※単位未満は切捨て。ただし、単位未満の場合は小数で記載。

## ■ 投資信託財産の構成

(2020年10月12日現在)

項 目	期		末	
	評 価 額	比 率	評 価 額	比 率
	千円	%	千円	%
公 社 債	9,461	74.8		
コ ー ル ・ ロ ー ン 等 、 そ の 他	3,186	25.2		
投 資 信 託 財 産 総 額	12,647	100.0		

※単位未満は切捨て。ただし、単位未満の場合は小数で記載。



## ■ 資産、負債、元本及び基準価額の状況

(2020年10月12日現在)

項 目	期 末
(A) 資 産	12,647,720円
コーポレート債(評価額)	3,154,457
未収利息	9,461,469
前払費用	29,022
前払費用	2,772
(B) 負 債	53
未払利息	8
その他未払費用	45
(C) 純資産総額(A-B)	12,647,667
元 本	12,685,274
次期繰越損益金	△ 37,607
(D) 受益権総口数	12,685,274口
1万口当たり基準価額(C/D)	9,970円

※当期における期首元本額10,580,853円、期中追加設定元本額2,104,421円、期中一部解約元本額0円です。

※上記表中の次期繰越損益金がマイナス表示の場合は、当該金額が投資信託財産の計算に関する規則第55条の6第10号に規定する額(元本の欠損)となります。

※期末における元本の内訳は以下の通りです。

ヘルスケア・リート・プラス	3,392,751円
米国・地方公共事業債ファンド(為替ヘッジあり)	50,056円
米国・地方公共事業債ファンド(為替ヘッジなし)	28,023円
世界コーポレート・ハイブリッド証券ファンド2017-03	871,211円
ライフ・ジャーニー(かしこく育てるコース)	2,543,560円
ライフ・ジャーニー(かしこく使うコース)	2,453,434円
ライフ・ジャーニー(充実して楽しむコース)	721,009円
人生100年時代・世界分散ファンド(資産成長型)	100,141円
人生100年時代・世界分散ファンド(3%目標受取型)	100,141円
人生100年時代・世界分散ファンド(6%目標受取型)	100,141円
人生100年応援ファンド(資産成長コース)	64,109円
人生100年応援ファンド(ちよっぴり受取コース)	32,055円
人生100年応援ファンド(おもいっきり受取コース)	24,041円
MF S・グローバル株式ファンド	100,181円
テトラ・エクイティ	1,503,157円
ボンド・ゼロトリプル(予想分配金提示型)	300,632円
ボンド・ゼロトリプル(資産成長型)	300,632円

※上記表中の受益権総口数および1万口当たり基準価額が、投資信託財産の計算に関する規則第55条の6第7号および第11号に規定する受益権の総数および計算口数当たりの純資産の額となります。

## ■ 損益の状況

(自2019年10月16日 至2020年10月12日)

項 目	当 期
(A) 配 当 等 収 益	94,739円
受 取 利 息	97,728
支 払 利 息	△ 2,989
(B) 有 価 証 券 売 買 損 益	△105,952
売 買 損	△105,952
(C) 信 託 報 酬 等	△ 683
(D) 当期損益金(A+B+C)	△ 11,896
(E) 前期繰越損益金	△ 21,290
(F) 追加信託差損益金	△ 4,421
(G) 計 (D+E+F)	△ 37,607
次期繰越損益金(G)	△ 37,607

※有価証券売買損益は期末の評価換えによるものを含みます。

※信託報酬等には、保管費用等を含めて表示しています。

※追加信託差損益金とあるのは、信託の追加設定の際、追加設定をした価額から元本を差し引いた差額分をいいます。

## ■ お知らせ

### <約款変更について>

該当事項はございません。